

2025年に備える

背景

≫広島県内の「団塊の世代」の方：約15万人

⇒2025年には、その全員が75歳以上に到達

≫75歳以上の人口（推計）

年	人口	人口割合
2015年	約37万2千人	13.2%



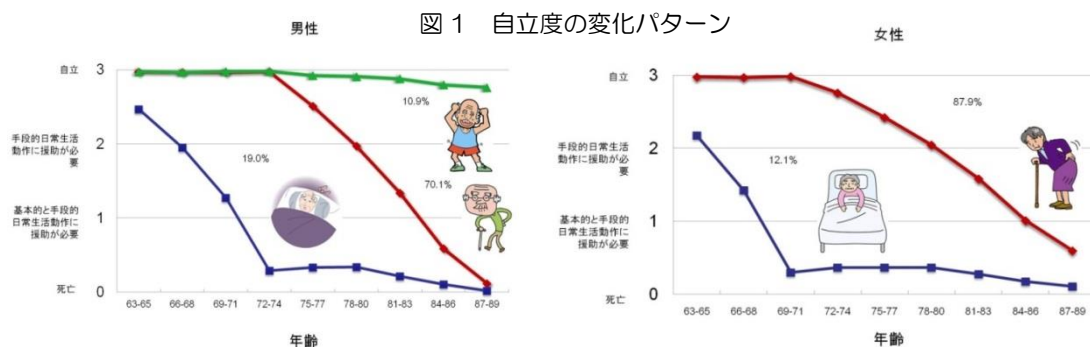
2025年	約51万6千人	19.2%
-------	---------	-------

≫日常生活を送るうえでの自立度の低下パターン

① 病気などにより、65歳ぐらいから急速に低下する人

② 加齢による衰えて、75歳ぐらいから徐々に低下する人

⇒②のパターンの方が多いたことが明らかに



≫出生数は長期にわたり減少傾向

⇒医療・介護を人材と財政で支える側となる生産年齢人口が減少

課題

≫健康寿命※（日常生活に制限のない期間の平均）【2016年】

男性		女性	
男性（全国順位）	全国	女性（全国順位）	全国
71.97年（27位）	72.14年	73.62年（46位）	74.79年

※「健康上の問題で日常生活に影響がない」という「国民生活基礎調査」の回答を基に算出したもの

≫特定健診の実施率【2015年】：45.3%（全国37位）

⇒病気の予防に向けた取組が十分とは言えない

≫2025年以降にさらに増大する高齢者の医療と介護のニーズへの対応が大きな課題

広島県の目指す姿

≫「欲張りなライフスタイルの実現」を応援【ひろしま未来チャレンジビジョン】
県民一人ひとりが、仕事や暮らしに対して抱く希望を「かなえられる」と感じることでできる社会

⇒○ 日々の健康と自立を保つことが基盤

○ 病気や加齢で衰えても、自らが希望する場所や暮らし方で生活ができること

基本的な考え方

≫2018 年度を始期とする健康，医療，介護に関する基本的な計画

⇒**2025 年に備えるための計画**として位置付け

≫共通のテーマ

病気や加齢による自立度の低下をどのようにして防ぎ，遅らせるか

≫目指す姿・目標

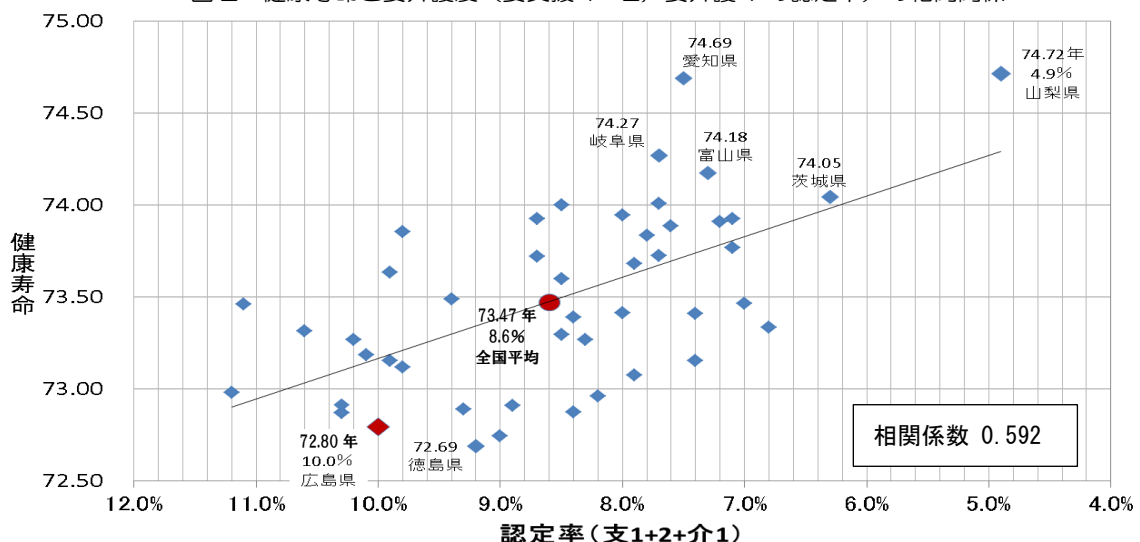
目指す姿：生活の質（QOL）の向上

総括目標：健康寿命の延伸

具体的な指標：要支援 1・2，要介護 1 の認定率の低下

≫健康寿命と要支援 1・2，要介護 1 の認定率には，一定の相関関係が認められている

図 2 健康寿命と要介護度（要支援 1・2，要介護 1 の認定率）の相関関係



出典 健康寿命：厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会第 11 回健康日本 21（第二次）推進専門委員会（平成 30 年 3 月 9 日開催）資料により「日常生活に制限のない期間の平均」（平成 28 年の推定値）の男女平均を算出（熊本県は調査データなし）
認定率：厚生労働省「介護保険事業状況報告（平成 29 年 3 月）」

≫目指す姿の実現に向けた取組

○ 脳卒中など生活習慣病に対して

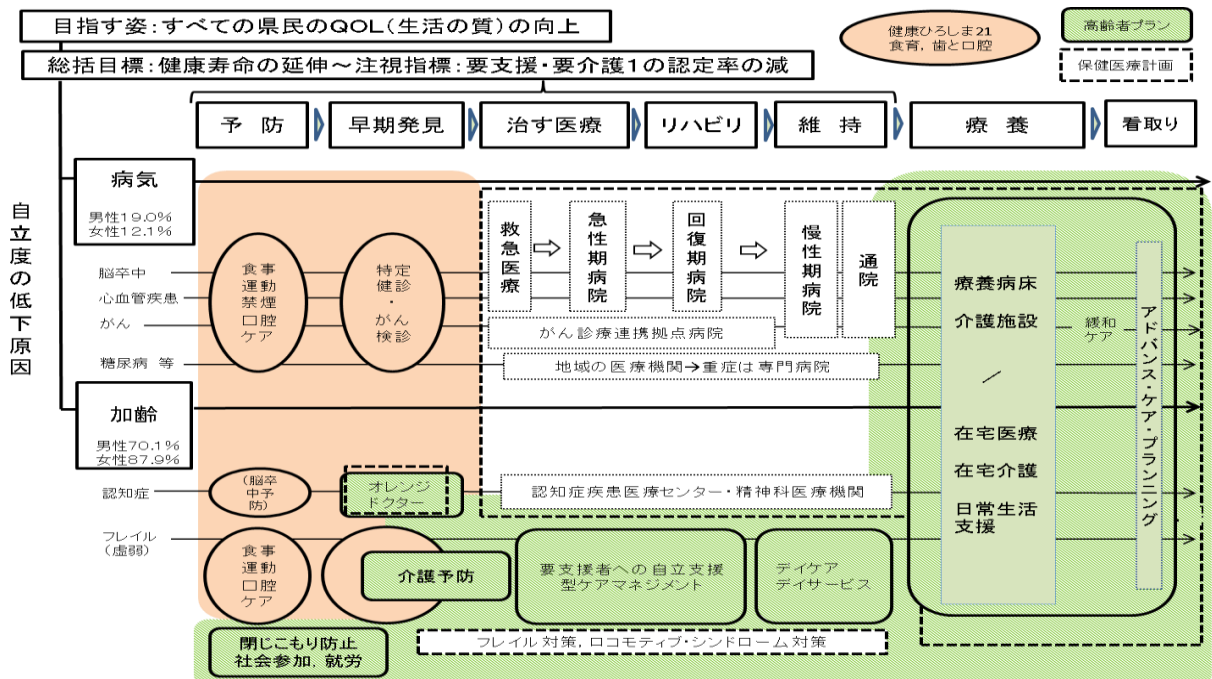
- ・ 予防・重症化予防の対策で病気による自立度の低下を遅らせる
- ・ 発症しても確実に治療して重度化を防ぎ，後遺症を残さないための医療体制を構築する

○ 加齢による自立度の低下に対して

- ・ 食事，運動，閉じこもり防止（集い）や「通いの場」による介護予防で防ぐ
- ・ 自立支援型ケアマネジメントにより先延ばしにする

≫それぞれの計画に，目指す姿，目標及び取組の方向性を掲げている

図3 目指す姿，目標，取組の方向性



≫自立度が低下した後も，できるだけ住み慣れた地域で尊厳を保ちながら自分らしく生活できるよう，医療・介護・日常生活支援などを一体的に提供するための取組をさらに強化

≫健康と自立をできるだけ保ち，希望する生活を送るための基盤を整備
⇒県民のみなさんの「欲張りなライフスタイルの実現」を応援

詳しくはこちら

- 健康ひろしま21（第2次）
- 第3次広島県食育推進計画
- 第2次広島県歯と口腔の健康づくり推進計画
- 第7期ひろしま高齢者プラン
- 広島県保健医療計画（第7次）